

ほ ほ え み

0 2 0 4 1 4

病院の周りのツツジがきれいに咲き誇っています。新緑もきれいで葉の一枚一枚に新しい息吹を感じます。いま自然界では全ての生命力が輝かしい活動の時を迎えています。我々人間とて同じではないでしょうか。病気の所を少し治せば人間が本来持つ強い免疫力や生命力が蘇ってくることでしょう。いまは少し我慢をして治療に専念し、子供のもつ強い力を信じましょう。

<第 8 1 回 ほほえみの会>

会員 3 人で NHK のドキュメンタリー番組の取材を受けました。番組化は未定だそうです。そのため会報は今回まとめて発行します。

<第 8 2 回 ほほえみの会>

新しい方 3 組を含め 1 2 人が参加しました。偶然にも同じ時期に同じ病気で入院された方々。新任の奈良先生も参加してくださいました。

▽ 3 歳の女の子。急性リンパ性白血病。弟は 5 ヶ月。母親は精神的なショックが大きく倒れる。下の子が小さく面倒が見られないのも申し訳ない。入園予定の幼稚園には検査入院と言っている。子供の治療や入院生活の不安や恐怖感をどうして取り除いてやったらいいのか分からない。参加者からは面会に来たときには良く抱っこをしてあげた。お母さんがいるだけで安心するので一緒にいて膝の上で本を読んであげたりした。また兄弟については、どうしても病気の子のことで頭が一杯になるので一緒に寝るなど家にいるときにはなるべく兄弟の事を気にかけた。との話が出ました。

- ▽ 7歳の女の子。急性リンパ性白血病。小学5年の兄。
3月末に入院したが今でも病気は間違いではないかと思う。
父親は単身赴任で離れていて仕事が手につかないことも。母親は毎日車で病院へ通う。本人には先生から紙芝居で病気のことを説明したが説明をすれば理解をしているようだ。
- ▽ 6歳の女の子。急性リンパ性白血病。4歳の弟。
保育園の卒園式前日に入院。小学校で本人が忘れられないか心配している。親も戻ったときにいじめられることがないか心配。
また、卒園式にも出ておらずまわりに病気のことをどう話して良いか分からない。
これは皆さん共通の悩みのようなのでした。
周りに協力してもらわないといけないので病名を話すと聞いた方がびっくりしてしまいかえって気を遣うことになる。
無責任に他人を興味本位で見る人もいる。
家を新築したばかりなのでそれが悪いという人も。宗教、健康食品の勧誘も多い。そっとしておいてほしい。
見ざる、言わざる、聞かざるで通したという人もいました。
- ▽ 面会の時の話も話題となりました。子供は病室内のストレスの中にいるので親が言って泣きたいときは思いっきり泣かせてすっきりさせてやればいいのか。
また、親が毎日泣き顔で面会に来ていたら子供がお母さんには笑い顔で来てほしいと言っていた。さらに、笑いは子どもの免疫力を高めるので病棟ではいつも笑わせるように努力をしていた。
テレビでも笑いが病気を治すという番組をやっていた。

次回は 5月12日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560
E-mailアドレスが変わりました k1iked@mx1.s-cnet.ne.jp
ホームページは閉鎖中です。再開までしばらくお待ち下さい。